

大会テーマ

若者、地域とともに育つ大学 ～北海道から考える～

大学評価学会は、設立大会(2004年3月28日)で決議した「大学評価京都宣言＝もう一つの『大学評価』宣言」において、「本学会は、設置形態、教学内容、規模、立地など、それぞれの大学・短期大学が持つ多様性を考慮した大学評価を行い、高等教育研究機関の発展に貢献していきます。」と述べています。大学評価、政策、経営における「Diversity and Inclusion(多様性と包摂)」を、新しい十年に入って継続的に探求したいとの思いから、第12回大会(2015年、神戸学院大学)では「ジェンダー視点からのアプローチ」を設定しました。きたる第13回大会では、多様性の一つである「地域」に着目し、高校教育や若者支援にも視野を広げつつ、開催地である北海道の経験から大いに学びたいと思います。

大会の準備過程で「無償教育の漸進的導入」に係る公開研究会を開催し、「北海道における高等教育の権利保障をめぐる状況」(光本滋、2015.8.23.)、「北海道における私立大学・短大の二極化と大学経営」(片山一義、2015.11.15.)の報告をもとに事前検討を行いました(学会HP参照、<http://www.unive.jp/>)。浮かび上がったキーワードは、「北海道、開拓・開発、貧困・格差、札幌集中・過疎問題、地域創造、教育(権)保障、高校・大学等、若者、発達保障、移行支援、大学経営・評価」などです。それらを集約する形で、大会テーマを「若者、地域とともに育つ大学～北海道から考える～」としました。高校等の関係者も含めて、学会員を問わず道内外から、多数の方々の参加をお待ちしています。

日時: 2016年5月14日(土)～5月15日(日)

場所: 北海道大学 札幌キャンパス(人文・社会科学総合教育研究棟)

住所: 〒060-0810 札幌市北区北10条西7丁目

アクセス: JR、地下鉄南北線・東豊線 札幌駅下車、徒歩7～10分で「正門」到着

参加費: 会員1500円/会員外3000円(申込不要)/院生・学生等1000円

懇親会費: 4000円(院生・学生等2000円/「院生・学生等」扱いは会員・非会員を問わない)

大会連絡先: 大会実行委員会 委員長・片山一義(札幌学院大学 経済学部)

E-mail: katayama@earth.sgu.ac.jp

事務局長・光本滋(北海道大学大学院 教育学研究院)

E-mail: mitumono@edu.hokudai.ac.jp TEL&FAX: 011-706-3186(研究室)

5月14日(土) 9:00～受付(人文社会科学総合教育研究棟1階)

9:30～12:00 第1分科会(自由研究発表) 発表各25分+総合討論25分

[A会場:講義室1]「大学政策・評価・実践」司会:岡山茂(早稲田大学)

- 1) 米津直希(稚内北星学園大学)
「大学による地域貢献と学生の学び—稚内北星学園大学におけるCOC事業の取組みから—」
- 2) 細川 孝(龍谷大学)「経営学の教育と実習・現場教育—「地域と企業」の実践と課題—」
- 3) 小野川文子(名寄市立大学)「教育僻地公立大学の学生の実態と授業づくりの模索」
- 4) 桑原 清(北海道教育大学)「グローバル化時代における教員養成問題
—教員養成系大学における対応とカリキュラム「改革」によせて—」
- 5) 堀 雅晴(立命館大学)
「細井ほか編『新自由主義大学改革』の担当第1章「グローバリゼーションと新自由主義」について」

[B会場:講義室5]「無償教育の漸進的導入」司会:水谷勇(神戸学院大学)

- 1) 渡部昭男(神戸大学)、渡部[君和田]容子(近畿大学)、國本真吾(鳥取短期大学)
「『無償化』科研の全体構想と地方施策研究の進め方—鳥取県を事例に—」
- 2) 下木なつみ(神戸大学大学院生)「子どもの貧困と若者支援—兵庫県猪名川町の取り組みに着目して—」
- 3) 田中秀佳(名古屋経済大学)、石井拓児(名古屋大学)
「大学生の教育費意識に関する調査手法の開発的研究(1)」
- 4) 小池由美子(埼玉県立川口北高校)「韓国の給食費の無償化と日本の給食費の実態」
- 5) 日永龍彦(山梨大学)「韓国の新聞記事に見る大学授業料(登録金)問題(第三報)」

12:00～13:00 昼食休憩(第VI期 第4回理事会:講義室1)

13:00～13:50 第13回会員総会(W103)

14:00～17:45 シンポジウム(W103)

[報告]14:05～16:20

1)「地方自治体と教育行政の立場から大学に期待すること」

菊池 一春氏(訓子府町長)

略 歴:留萌市出身。1972年に訓子府町教委に入り20年間、社会教育活動に取り組んだ。その他、町街並み推進室長、町福祉保健課長、町生活環境課長、町出納長などを歴任し、2007年より現職。

2)「地域における「つながり」に関する若者の意識

—北海道の高校生を対象とした調査から—

三上 直之氏(北海道大学准教授[高等教育推進機構高等教育研究部])

主 著:『座談会 地域における「つながり」に関する若者の意識』『開発こうぼう』(622)(2015)、『円卓会議方式による地域環境再生計画の策定過程の分析と評価』博士論文(2007)

3)「地域に根ざして個性を磨き、地域社会の再生に挑む」

黒瀧 秀久氏(東京農業大学教授)

主 著:『日本の林業と森林環境問題』八潮社(2005)、『戦後日本林業における危機の構造と林業再構成の課題』博士論文(2000)

[討論]16:30～17:45

指定討論者 植田健男(名古屋大学教授/同教育学部附属中高等学校前校長/本学会代表理事)

<司会> 光本滋(北海道大学) 渡部昭男(神戸大学/「無償化」科研代表)

18:00～19:45 懇親会(教育学部3階会議室)

9:30～12:00 分科会（午前部）

5月15日（日）

第2分科会（講義室2） 座長：細川孝（龍谷大学）**「大学評価の実践と大学経営」****テーマ：大学ガバナンス、そして教育の現場から見る大学評価・大学経営の改革課題**

<趣旨> 日本の大学のありようは、1990年代以降の新自由主義的・新保守主義的な「大学改革」によって、大きく変容してきた。その過程で、国公立大学の法人化、認証評価の法的義務付けを通じて、「大学評価」の時代が到来した。しかし、現在の大学評価は多様で多元的な大学評価とはほど遠く、教育や研究現場の課題はむしろ深刻化しており、そしてそれらを包摂する大学経営を改善するには至っていない。一方、2015年4月から施行された改訂学校教育法は「教授会の審議事項の明確化」という口実で、教授会の位置づけを大きく変更した。また、この間、学長の選出を構成員の総意にもとづかない形で行う動きが広がっている。このようなもとで、本分科会では、大学ガバナンスというトータルな視点から、そして教育現場の声を活かすためには評価はどうあるべきか、という最も基礎的な部分から大学評価と大学経営の現状を改めて把握し、改革課題について議論を深めたい。

1) 廣田 健(北海道教育大学釧路校)「北海道教育大学のガバナンス改革」

2) 小山 由美(日本大学)、佐藤 真由子(日本大学学生)、須藤 優衣(同)

「教員と学生の協力が改善につながる——薬学教育の現場から」

[指定討論者] 片山 一義(札幌学院大学)

第3分科会（講義室5） 座長：西垣順子（大阪市立大学）**「発達保障」テーマ：ノンエリート青年の大学教育と発達保障****——なぜ大学に行き、学ぼうと思うのか**

<趣旨>ユニバーサル化時代の大学生の特徴として、「学習動機が不明確」「無気力」などと記述されることは少なからずある。だが、実際にそういう学生の姿も見られるとしても、本当にそのような言葉だけで片付けてしまって良いのだろうか？ このような問題意識のもとで、本分科会では経済的に恵まれていなかったり、学力的にも恵まれなかったりする(少なくともエリート的な学力の高さを有するわけではない)青年たちが、それでも大学に行こうと考えるのはなぜなのかを考えたい。

1) 白波瀬 正人(学校法人野田鎌田学園あずさ第一高等学校)

「通信制課程で学ぶ高校生の現状と課題——進路希望調査からの一考察」

2) 伊田 勝憲(静岡大学大学院教育学領域/元・北海道教育大学釧路校)

「貧困・愛着・スクールカーストから考える進学動機」

[指定討論者] 川原 茂雄(札幌学院大学)

12:00～13:00 昼食休憩（第VI期 第5回理事会：講義室1）

5月15日(日)

13:00～15:30 分科会(午後の部)

第4分科会(講義室2) 座長:村上孝弘(龍谷大学)

「教職協働」テーマ:大学職員と専門的職員——両者の関係と今後の課題

<趣旨>「大学のガバナンス改革の推進について(審議まとめ)」(2014年)以降、にわかには大学職員の専門性や専門的職員の議論が盛んになってきた背景を踏まえて、その経緯を整理するとともに、これまでの専門的職員の制度の課題や今後の展開について総合的な検討をおこないたい。また、英米の大学における教員以外の(IRer等の)専門職の在り方や、日本の図書館における専門的職員の現状、更には日本の大学職員が民間企業の事務系総合職や事務系公務員同様のジェネラリストである、という点にも着目して、これまでの大学職員論、大学職員の専門性、専門的職員論の総括的把握もおこなう。

[趣旨説明] 菊池芳明(横浜市立大学)

- 1) 高野篤子(大正大学)「英米の大学職員について——日本との比較的考察」
 - 2) 梶原茂寿(北海道大学)「学術情報のオープン化時代に求められる大学図書館職員の専門性」
- [指定討論者] 深野政之(大阪府立大学)

第5分科会(講義室5) 座長:小池由美子(埼玉県立川口北高等学校)

「高校教育・高大連携」テーマ:高大接続と社会参画のあり方

——高校・大学をつなぐ主権者教育と地域づくり

<趣旨>社会参画の視座から高大接続の教育課題にアプローチする。公職選挙法が改正され、18歳選挙権が日本においても実現し、高校生・大学生の社会参画促進が期待される。しかし先の総選挙では20代の投票率が32.6%という実態がある。高校生に望まれる主権者教育の課題は何か、大学教育における主権者としての自覚を促す課題は何かが改めて問われる。国からの政策で大学「改革」が進められる下、大学づくりと学生参画とも関わる課題である。同時に主権者教育とは、国政のみならず地域社会への参画課題でもある。北海道から、地域づくりに主権者として高校生・大学生がどのように参画しているか、実践と理論を深める。

- 1) 姉崎洋一(北海道大学名誉教授)「地球市民教育と主権者教育の結合の理論と実践課題」
 - 2) 池田考司(北海道奈井江商業高校/北海道臨床教育学会副会長)
- 「若者が主権者になることを保障する政治教育を」

[指定討論者] 小山田伸明(北海道大学学生)

15:40～16:30 総括討論(講義室2)

司会:日永龍彦(山梨大学/本学会副代表理事)

<大学評価学会共同事務局>

〒657-8501 神戸市灘区鶴甲3-11 神戸大学発達科学部 渡部昭男研究室

E-mail: akiowtnb@port.kobe-u.ac.jp / TEL & FAX:078(803)7726

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67 龍谷大学経営学部 細川孝研究室

(会費・発送・HP管理) E-mail: hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp / TEL & FAX:075(645)8634